



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

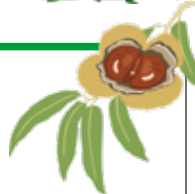
電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

9月市議会の 一般質問を傍聴して



9月8日の辻よし子議員の一般質問を傍聴しました。駅前での街頭演説もそうですが、辻さんの話は分かりやすく、しかも問題の本質を簡潔に解説してくれるので、聞いて良かったといつも思います。そして、この次も辻さんの話を聞いてみたいと思います。

今回は市営住宅の問題を取り上げていました（他に区画整理事業についても質問）。

雨間ハイツに関する市の条例を現状に合わせて改正すること、改正の方向で市も考えているのだったら、条例改正前であっても改正の趣旨にあった対応をしてほしいというものでした。それに対して、都市整備部長の答えは、まだ改正されていないので、現行の条例に則って対応するというものでした。

今までのあきる野市議会では、それで一件落着きました。しかし辻さんが議員になって、その続きがあるようになりました。部長の答弁の後、市長が、次いで副市長が登場し「条例が定められてから20数年が経過し、雨間ハイツ以外の老人福祉住宅が建設され、事情



は大きく異なり、市でも改正の方向で進めている。まだ条例は変わっていないが、現状に合わせた対応をしていきたい」と部長の答弁と異なる答弁をしました。

部長がかわいそうだという感じ方もあるでしょう。しかし、私はこれで良いのだと思います。部長は現行の条例に反する発言はできないでしょう。そういう権限があるのは市長であり、副市長です。

市議会がこのように変わってきたのは、辻さんの「市民の生活と心を何よりも大切に考え行動する熱意」がしからしめたのだと思います。（S・Y 山田在住）

市の課題が
よく分かる

会派くさしぎ

辻よし子の議会報告会

9月議会のポイントを
分かりやすくお伝えします！

11月15日（日）

14:00 ~ 16:00

あきる野ルピア3階

集会室

申込不要・参加費無料（マスク着用をお願いします）

議会の様子が
よく分かる

コロナ対策予算に想う



コロナ対策で国から2億5千万円の補助金が交付されることになり（国の第1次補正）、その使い途が次々と市の補正予算で決められています。市からの持ち出しや返済の必要が無い補助金ではありますが、国債を発行しているわけですから、将来にツケを回しているものです。無駄にしてはならないのは明白です。

しかし、最も必要としている人がどこにいるのか把握して、支援のために何が有効なのか打ち出すのは一筋縄でないと想像できます。また、全ての人が無理難題に直面している中、誰を対象にするのが社会的にみて公平なのか、判断するのも難しい。何が正解か分からない中で、素早く状況判断し、新たな施策を立ち上げ、リーダーシップを発揮している首長が注目され、そんなトップをもつ自治体をうらやましく思う気持ちもあります。

一方で、私たち自身が、生活者として声を発信していく力を試されているのかもしれないとも感じます。日ごろから、人付き合いの中で支援を必要としているところに光が当たるよう、声をあげていけば、非常時にも役に立てるかもしれない。暮らしの中で問題意識をもった事柄に主体的に関わっていれば、行政と協力して新しい仕組みを提案できるかもしれない。自助、共助のことを言いたいわけではありません。個人が意思をもって自由に考え行動する中で「公」に関わっていき、その先に予算の配分があれば、より実態に即したものになるのではないかという理想です。

次の非常事態の時に、「場当たりの」ではない対応をしてもらうため、私たちの市民力も向上させていきたいですね。（K・T 秋川在住）

無所属
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、2期目。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

菅首相のこと

菅首相は集団就職で上京して、昼は段ボール工場で働き、夜は大学に通って政治学を卒業したそうである。その話を聞いたとき、それは大変だったろうなと私は思った。似たような経験が私にあったからである。

私は十二の時に父を亡くした。二歳下の妹が住宅会社に就職すると、母の面倒を妹に押し付けて家を出た。

私は新宿区^{やらい}矢来町に移り住んだ。小さな木造二階建てアパートの一階の三畳一間が私の住まいであった。私はそこを生活の拠点に、大塚駅近くのクラフト紙袋を作る会社に勤めた。

営業部員であったが、まだ青臭さの残る私には、取引先の購買部や資材部の年配の担当者との交渉は、上手くゆかないことも多かった。

仕事を終えると、その足で御茶ノ水駅に急いだ。ニコライ堂の坂下にあった大学の夜間部で、法律を学び始めたからである。最前列の真ん中の席で、教授の講義を聴いた。しかし、10分も持たず私は決まって寝てしまった。私は卒業するのが精一杯だった。

ところで、菅首相の集団就職云々の話は事実と大分違うという。「二浪して大学に入りました」「時にはバイトもやりました」で済む話を、彼は何故脚色したのであろう。

工場労働者として、上野駅から都会の各地に散って行った、同郷の中学生の心情を、彼は考えたことがあるのだろうか。

政治的立身の道具立てとして、彼らの置かれた苦境のイメージを利用したのであれば、許される話ではない。（K・Y 館谷在住）

